月１回の保護者会で家庭とのつながりを大事にしています。

トキワ松学園小学校校長
飯田靖夫さん

●１クラス 23 人だからできるきめ細かな指導

――トキワ松ファンが多い理由の一つは、１クラスあたりの児童数が 23 名という少人数制にあるといわれていますが‥‥。

飯田　ええ。どの教師も非常に面倒見がいいんですが、これは少人数だからできることだと思います。朝７時半くらいから来ている子どももいます。授業が始まるまでの 45 分間、教師の誰かが子どもたちと一緒に遊んでいます。現場の教師は、子どもたち一人ひとりの性格や健康状態だけでなく、家庭環境まで把握しています。言葉に出していえば、あるいは活字になったときは、その程度のことはどこでもやっているということかもしれませんが、30 人 40 人に対するきめ細かさと 23 人に対するきめ細かさはやはり違います。子どもの数が 30 人 40 人ではやりたくてもできないことが、23 人ならできることはたくさんあるのです。

――たとえば、どういうことですか。

飯田　私どもの場合、授業中、１回も発言しなかったという子はいません。大勢の前で発言するのは大人でも気後れしますが、子どもでも同じです。しかし教師は一人ひとりの子どもの表情を見て、この子は答えがわかっていても恥ずかしがって手をあげないとわかれば上手に発言を促します。答えがわからない子でも、答えやすいようにヒントを出すこともあります。授業でも遊びの場でも、子どもに疎外感をもたせるようなことはさせません。

――子ども同士の交流はどうですか。

飯田　男の子と女の子は１クラスそれぞれ 11 ～ 12 名です。この数なら、顔は知っているけれど、どんな子かわからないということはないですね。お互いに相手の人柄や性格がよくわかりますから“派閥”ができにくい（笑）。いじめを心配する親御さんも多いと思いますが、そうした心配はまったくありません。喧嘩があったとしても、きょうだい喧嘩みたいなものです（笑）。休み時間に校庭をご覧になるとわかりますが、本校の場合、５、６年生と低学年の子どもが一緒に遊んでいるケースがとても多いのです。学年が異なっても子ども同士の交流が活発に行われています。低学年の子どもと遊んでやれ、世話をしろと指導しているわけではなく、自然とそうなっています。１年生から６年生まで全学年でわずか 270 名です。しかも１、２階が小学校で３、４階が中学です。自然ときょうだいのような関係がつくられていると思います。まあ、理事会のほうでは１人でも多くの児童をとれと言いますが、子どもの成長というのは、１年生のときの体重が６年生になると倍になるんですよ。身長差で 30 センチも違います。１年生の小さい子を１人２人ふやすのは簡単だけれど、高学年になったら空気の量が少なくなるから、定員を増やすことはご容赦いただきたいと（笑）。

●15分を1単位（モジュール）としてカリキュラムを組む

――1年生の時間割りをみると、同じ「さんすう」の授業でも15分授業と45分授業がありますね。

飯田　私どもの場合、15分を1単位（モジュール）として授業の時間割りを決めています。1モジュールの計算や漢字の授業もあれば、図工や生活科の授業は6モジュール（90分）です。すべての教科が45分授業という画一的なものでいいのかどうかという発想から15分を1単位とするモジュール制を取り入れています。学年によって、あるいは教科によって授業時間を変えてもいいと考えてのことです。漢字の練習とか音読であれば、短時間で集中させたほうが効果的ですから1モジュール（15分）、図工はみんなが好きですから、6モジュール（90分）です。図工の時間は、トイレには誰も行きたがりません。退屈な授業のときはトイレが近くなります（笑）。1年生だから長い授業はできないとか、高学年だから長い授業ができるということではなくて、教科別、発達段階、学年によって、いろいろ工夫して、バラエティに富ませたほうがいいということです。

●23人学級のメリットは中学受験で発揮される

――男子は全員が中学受験をしなければいけませんが、難関中学にも多数の合格者を出しているようですね。

飯田　男子の場合、もともと20数名しかいない中で、慶応の普通部、中等部、麻布などの難関校に合格者を出していますから、合格する確率はかなり高いですね。その辺が評価されていると思います。

――受験指導のポイントはどの辺にありますか。

飯田　23人という少人数制の中で、低学年から基礎をしっかり鍛えていることが大きいと思います。また本校の場合、5年生から国語、算数などの授業時間数を文科省の基準よりもかなりふやしています。算数については、教科書以外に、受験塾で使っているような問題集も利用して指導しています。国語も、文章題などを重点的に指導するなど、5年生から実質2年間は受験指導を積極的に取り入れています。放課後は、通常の授業以外に基礎が遅れている子については、担任や教科の教師が補習授業をします。23人学級の中で教師がそれぞれの子どもの適性や能力を的確に把握しています。このため早い段階から、その子に合った志望校選びができるだけでなく、きめ細かな弱点対策も可能です。それが難関校への合格実績に結びついていると思います。

――女子の中学受験はどれくらいの数になりますか

飯田　系列の中高に進学してほしいという気持ちはありますが、やはり6年間、男の子と一緒に勉強してきましたから、女子にも高いレベルの学力が身についています。また共学校に進みたいという子もいますから、女子の2割前後は中学受験をします。

●低学年はまず体づくり

――御校では、低学年の間は遊びと体づくりに重点を置いているようですね。

飯田　うちは伝統的に健康教育を重視しています。初代校長はまず体を

つくることが大事と健康教育にとても力を入れた先生でして、その伝統を我々も引き継いでいます。ことしは体育館を新設しましたが、地下にプールをつくりました。中・高は難色を示しましたが、何とかムリを承知でお願いし実現しました。

——低学年のうちは頭よりも体をつくれと‥‥。

飯田　ええ。ですから、冬の期間は月曜日と金曜日の朝、校庭で全校マラソンをやってますよ。教師も走ります。水曜日は全校生徒で縄跳びをします。

——校長も走りますか？

飯田　子どもは1周100メートルのトラックを10周以上走りますが、僕は3周でヘトヘト（笑）。

●きちんと躾られているかどうかはわかります

——ところで、入試の評価ポイントはどの辺にありますか？

飯田　入試では、ペーパーテストと集団遊びのテストを行いますが、ペーパーテストでは、年齢相応の知識が身についているかどうかを見ます。難問奇問の類いはほとんど出しません。ですから、ペーパーテストではそんなに差がつきません。集団行動では、12人ぐらいのグループで20分ほどゲームをさせます。ケンケンをやったり、どんじゃんけんをやったり、それをグループごとで対抗させますから、けっこう子どもの地が出ます。その後、自由に遊ばせるテストが40分ぐらいあります。いくつか遊び道具が置いてありそこで自由に遊ばせます。教師は何も指示しません。このテストも子どものふだんの姿を見たいというのが狙いです。地が出るというと、マイナスイメージがありますが、好ましくない部分だけではなくて、その子の光る部分も我々は見たいのです。リーダーシップを発揮したり、きちんと後片づけをしたり、あるいはお友達に声をかけたりとか、まあ、その辺は訓練していることもあるでしょうが、どの子もきちんとできています。しかし、時間が経ってくるにつれて、だんだん自分らしさというか地の部分が出て来ますね（笑）。

——後片づけをするかしないかは採点の対象に入りますか。

飯田　当然入りますが、後片付けをしない子はほとんどいません。

——後片づけの仕方で差はつきますか。

飯田　ポンと投げ入れる子は少ないですね。ただ片づけなきゃいけないと形式的にやっている子と、本当に自分できちっと整理しようとしてやっている子の差はやはりわかります。家でしっかりしつけられているかどうかは大体わかります。

●保護者面接を重視する理由

——保護者の面接を重視しているようですね。

飯田　面接では、いちおう志望理由をお聞きますが、むしろ、私どもの教育方針にご協力いただけるかどうかを確認する場という側面があります。もしご縁ができたら、これこれの点は協力していただかなくてはいけませんがよろしいでしょうかと念押しをさせていただきます。学校説明会のときには、ご縁があって、私どもにお入りいただくことになったら、いろいろな形でご協力いただくことになるとお願いします。子どもの教育は学校と家庭の二人三脚であるべきだというのが私どもの基本的な姿勢ですが、もう一歩進めて、ご自分のお子さんだけでなく、46人の子どもたちの親になったつもりでいろいろな学校行事に参加するだけでなく協力してほしいと‥‥。

——保護者会は多いのですか？

飯田　担任が主催する学級懇談会が月に1回ほどあります。だいたい1学期に3回、2学期3回、3学期2回、計8回ぐらいです。そのほかバザーとか、もちつき大会とか、運動会もあります。運動会は親子運動会ですから、ご両親には万難を排して参加してほしいと思っています。そ

ういうことを含めると、学校に来ていただく回数はけっこう多くなります。もしご縁ができたら、その辺のことをご納得いただきたいということをお願いしますから、ご両親の面接は重視しています。

——仕事をもっている母親は不利ですか？

飯田　そのご心配はまったく無用です。ご両親が共働きというケースは年々増えています。学校行事への参加回数が多いといっても、４月に年間の行事予定を出しますから、みなさん、なんとか仕事を都合していただいています。それに、どうしてもお母さんが参加できないときは、お父さんでもいいし、おばあちゃんがいらっしゃることもあります。

——こちらでは、保護者の仲がいいそうですね。

飯田　ええ。仲がいいというか結束力が強いですね（笑）。運動会では、学年ごとに同じ色のシャツをつくって応援するし、バザーも保護者全員が参加してくれます。学校へ来る回数が多いので、自然と仲間意識が強まるのだと思います。保護者だけで食事会をしたり、ディズニーランドに行っているケースもあるようです。仕事で参加できないお母さんがいれば、誰かが子どもだけを迎えに行っているみたいですよ。だから卒業していくときの謝恩会なんて、みんなもう涙、涙ですよ（笑）。

●とくに重視していることは「聞く」姿勢

——受験準備の主体は家庭にあるといわれていますが、どうお考えでしょうか。

飯田　家庭での基本的なしつけや生活習慣の定着、その辺を見させていただくために試験をしていますから、受験準備は家庭でおやりになっていただきたいというのは、その通りです。とくに私どもが重視していることは、「聞く」姿勢です。聞いて、なおかつそれを自分で解釈して行動できる、その辺のところは大事にしてほしいと思います。

——基本的な生活習慣を身につけるだけで、入試に対応できますか。

飯田　たとえば、ボールを何回もつけるとか、ケンパーが上手にできるとか、平均台に上ったり渡ったりできるとか、そういうことよりも、平均台の上で、じゃんけんをして、負けたらそこから降りて一番最後につくとか、前の人にタッチしてから後ろへ行きなさいなどの指示が出ますから、そういうことが確実にできているかどうかを見ています。子どもが戻って来たとき、みんなできたと子どもが言うから、うまく行ったと思うかも知れませんが、そうではないのです。一生懸命、ケンパーを練習しても、できたかできないかではなく、評価は別だということをご承知おきいただきたいのです。ですから、お父さんお母さんのお話がきちんと聞けるかどうか、意味を理解して、言われた通りに行動できるかどうか、その辺をご家庭でしっかりと教えてほしいと思います。

——ありがとうございました。